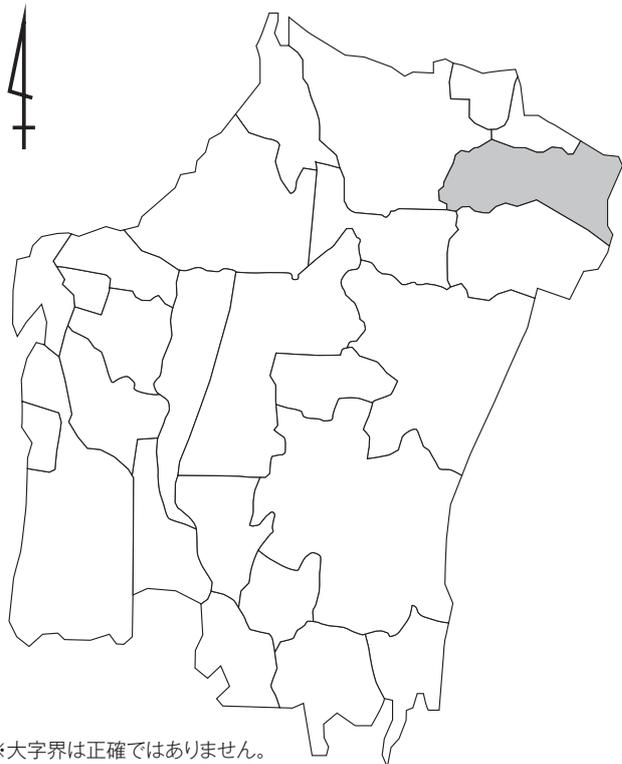


郷土かみのかわの歴史・文化財

上三川の地域と歴史 東汗

東汗は、上三川町の北西部、鬼怒川右岸の低地に位置し、東部は鬼怒川を隔てて真岡市と境を接しています。西部を雀川、集落の中央を谷川が流れています。明治22年の町村合併までは東汗村と呼ばれ、近世を通して宇都宮藩領で、明治時代以降に書かれた戸祭文書によれば、室町時代

には戸祭氏の所領であったそうです。天保年間（1830～1844）には家数28戸と記録されています。東汗には、河原欠遺跡（字下川原）や五丁免遺跡（字五丁免）といった縄文時代から平安時代にかけての遺跡も所在しています。また、字上町には宇都宮氏ゆかりの人物の館であ



※大字界は正確ではありません。

る上城跡や汗城跡といった中世城館があったといわれています。

地区の鎮守として高麗神社が鎮座しています。創建年代は不明です。境内には推定樹齢230年の赤檜の老木があり、町の天然記念物に指定されています。この高麗神社の隣には、薬師院仁王山満願寺が座しています。767年、日光山を開山した勝道上人が開山したと伝えられます。平安末期の恵心僧都作といわれる木造阿弥陀如来座像は、県の有形文化財に指定されています。当寺を別当とする薬師堂の本尊薬師如来座像は、別名汗薬師と呼ばれ、「汗」と書いて「フザカシ」と読む地名の由来にもなつたといわれます。当時「フザカシ」の地名に当てる文字がなかったため、汗薬師の汗を仮用したといわれています。なお、この薬師堂と薬師如来座像を含めた薬師三尊像は、町の指定文化財となっています。

さて、前述の「汗」の地名の由来については、別の説もあります。満願寺の南側を通る道を東に進んでいくと、鬼怒川の河川敷にたどり着きます。正確な場

所については定かではありませんが、かつて鬼怒川の渡しの河岸があったことから、「船座河岸」や「札貸し」「札河岸」に由来するといった説がありますが、いずれも

確証はありません。「汗」という全国でも屈指の難読地名を持つ上三川町。皆様も読み方を聞かれたことが一度はあるのではないのでしょうか。



満願寺薬師堂